

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年2回の市内小中学校の特別支援教育研修会、市内幼稚園子ども未来園(保育園)の療育支援事業に参加することにより、連携が図れる関係づくりができる基盤がある。	市内小中学校・幼稚園子ども未来園(保育園)・児童クラブ・家庭などとすぐに連絡が取りあえるよう、常日頃から様々な機会を活用して連携を心がけている。	問題のあるなしに関わらず、日ごろからの情報共有に努める。
2	行政・相談機関・児相など、様々な関係機関との連携が図りやすい。	各種協議会には積極的に参加し、日頃から連携が取れやすい態勢を構築している。	職員の異動に伴い、構築された関係性が弱くならないよう、組織同士の関係性を強固なものにしていく。
3	若者から経験豊かなベテラン職員までの幅広い年齢層で様々な角度から対応することができる。	共感したり、論じたり、一緒に目標設定したりと、様々な角度で子ども達自身が課題を意識して成長できるような取り組み方を工夫している。	今の社会情勢に合わせた、子ども達が関心を寄せる情報(ゲームやSNSなど)は若い世代がたくさん情報を持っている。躰きの背景にあるそうした情報も大切にしながら子ども達と関わっていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援に必要な知識やスキルを持つ若い世代の育成。	今後、若い世代に訪問支援への同行をさせることで、支援者として活躍できる人材の育成を行っていく。	経験値を高めさせ様々な事例に対応できるようにしていく。
2	積極的な訪問支援は行っていない。	学校や園の先生方は子どもに向き合う専門職と考えているため。しかし、先生方がおっしゃってくださる様に、子ども達の成長の道筋を把握して、課題を整理しやすい立場にあるので、必要に応じ、訪問先と情報共有を行い、子ども達の健やかな成長のための支援を行っていききたい。	今後とも園・学校・児童クラブなどに対し、事業に関する広報活動を行い、活用しやすいようにしていく。
3			